

小学部 第1学年 国語科「しらせたいな、見せたいな」学習指導案

<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。【思・判・表】</li> <li>・助詞の「は」、「へ」、及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ「」の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。【知・技】</li> </ul>
<p>○日本語支援 ●多文化共生の視点</p>	<p>○知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードにまとめることができるよう、観点を示した掲示物やモデル文を用意する。</p> <p>○日本語学級で先行学習を行い、「～は、～です。」のモデル文を用いて文章を書いたり、形や色、様子を表す言葉を事前に学習したりする</p> <p>●児童が取り上げる題材として、ルーツのある国の食べ物を扱うことで、それぞれの国の文化を知ったり、紹介したりする機会とする。</p> <p>●本単元では、多文化社会の中で生きる力として、主に、寛容性の育成を図りたい。そのために、作成した文章を互いに読み合い、良さを伝え合う活動を取り入れる。</p>

単元の指導と評価の計画

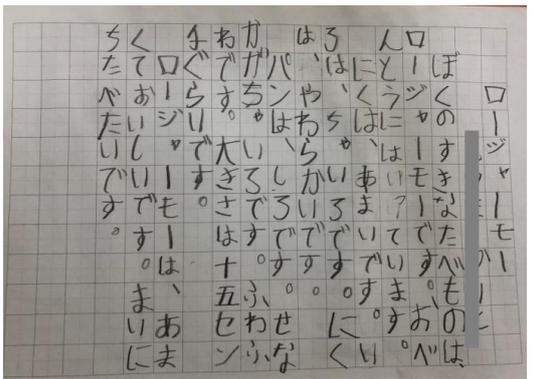
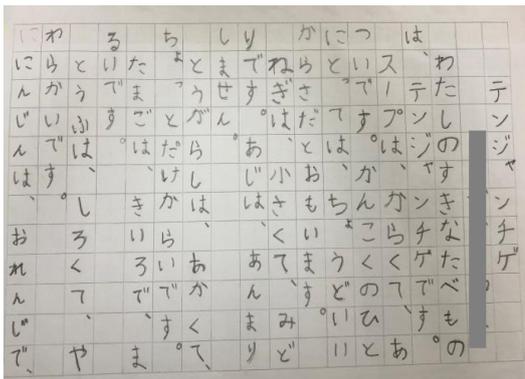
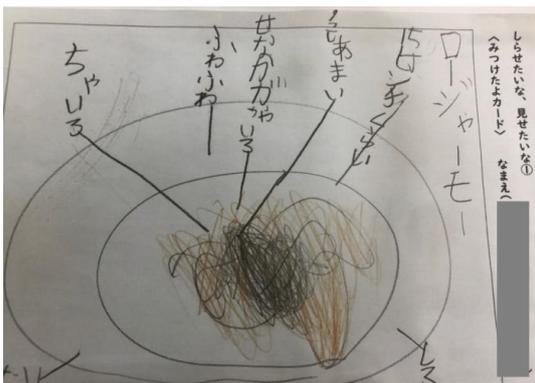
時間	学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな食べ物やお弁当の具材などから知らせたいことを見つけている。【思】</li> </ul>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らせたいものを決め、絵や見つけたことをカードに記録する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助詞の「は」の使い方や、句読点の打ち方を正しく理解して書いている。【知】</li> </ul>
4 5 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけた事柄を文章に書く。 (本時：5時)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らせたいものをよく観察して絵を描き、色・形・様子などの特徴を短い言葉で書いている。【思】</li> <li>・語と語や文と文との続き方に注意しながら、短い言葉で書いたことを一文にまとめている。【思】</li> <li>・書いた文章を読み返し、間違いを正している。【思】</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた文章をお互いに読み、学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知らせたいことを言葉で伝えることができたことに達成感を感じ、前向きな感想を書こうとしている。【態】</li> </ul>

本時の学習

- (1) ねらい 色、形、大きさといった観点に沿って見つけた特徴を短冊カードに書くことができる。
- (2) 準備 見つけたよカード、短冊カード、掲示物
- (3) 展開

学習活動と内容	指導上の留意点 (☆多文化共生の視点)	評価規準 (方法)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時の学習を想起する。</li> <li>2. 学習課題を確認する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに書いたカードやワークシートを見て、学習の流れを想起できるようにする。</li> </ul>	
<p>わかりやすくしらせるために、見つけたことを「たんざくカード」にかこう。</p>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 「見つけたよカード」に書き込んだことをもとにして、「短冊カード」に文を書く。 ・書き出し</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆「～は～です。」のモデル文を提示して、見つけた特徴を文章に書くことができるようにする。 (日本語支援)</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・色</li> <li>・形</li> <li>・におい</li> <li>・味</li> <li>・分の組み立て「～は、～です。」</li> </ul> <p>4. 「短冊カード」に書いた文章を発表する。</p> <p>5. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時にできるようになったこと</li> <li>・次時の内容の確認</li> </ul>	<p>☆何人かの児童に発表させ、どのような書き方をすればよいのか、確認できるようにする。(日本語支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早く書き終わった児童には、自分の書いた文章を声に出して読み直すなどの課題を与え、自分で表記の間違いに気付き、直すことができるようにする。</li> <li>・ペアで短冊カードを読み合い、助詞の間違いがないか句読点が抜けていないか確認できるようにする。</li> </ul> <p>☆友達が書いた文章を聞き、良いところを伝え合えるようにする。(寛容性の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに沿って、振り返りができるように声掛け。</li> <li>・次時に向けて見通しがもてるように、掲示物を用意しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～は、～です。」の形で文を書くことができている。(記述)【思】</li> <li>・書いた文章を読み返し、間違いを正すことができている。(記述)【思】</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知らせたいことを言葉で伝えることができたことに達成感を感じ、前向きな感想を書こうとしている。(記述)【態】</li> </ul>
--	--	---



**考察**

前時までの学習で、「見つけたよカード」に色や形、味などを詳しく書くことができていたので、本時の「たんざくカード」を書く活動では、どの児童もスムーズに書くことができていた。また、日本語支援を必要としている児童も、日本語教室での先行学習で一度文章を書いていたので、意欲的に学習に取り組むことができた。教科書の教材としては、学校の周りで見つけたものを題材として取り上げられていたが、周囲の環境なども考慮して、あえて食べ物を取り扱い、題材とすることとした。いろいろな国の料理を取り上げることができ、日本以外の国にルーツのある児童は、自分のルーツのある国の料理を題材として選んだ。それによって、学習に対する意欲も高まり、積極的に文を書くことにつなげることができた。